資料３

シンポジウムでの情報共有・意見交換のまとめ

１　国の動向・逗子市の状況について

●高齢化により医療需要が変化し、大病院での高度～急性期医療ニーズは減少、逆に回復期～慢性期・在宅医療ニーズが増加

●逗子市の両脇には湘南鎌倉総合病院（救急車受入れ台数日本１位）、横須賀共済病院（同第２位）があり、大病院での高度～急性期医療は充足しており、逆に必要なのは日常生活での困りごとに対応できる回復期を中心とした面倒見のよい医療提供体制（軽い急性期～回復期～慢性期・在宅医療に対応）

●今後逗子市は人口減少、入院患者は 2025～2030 年をピークにその後減少

●今後も多い疾患は、脳梗塞、心不全、肺がん、胃がん、大腸がん、骨折、肺炎等

●いずれも日常生活における重症化予防やリハビリ、訪問看護、在宅医療・介護が重要となる疾患

●近隣には日本屈指の救急病院が存在しており、治療や救急対応は任せられる。一方、それ以外の需要に対しては、逗子市の地域包括ケアシステムを構築することで対応するしかなく、まちづくりの視点を含めて当事者意識をもってオール逗子市で取り組む必要がある。

（第２回シンポジウムでの伴先生の資料から抜粋）

資料３

２　シンポジウムで出された課題の整理

	検討が必要な項目	課題の内容
1	病院について	① 急性期医療ニーズの減少による病院形態の変化
2	救急医療について	① 困ったときにすぐ診てもらえる医療の提供体制 ② 小児科の夜間診療提供体制 ③ 医療機関・救急の利用の仕方（医師の働き方改革、限りある医療従事者を疲弊させない仕組みづくり、オンライン診療など）
3	在宅医療について	① 在宅医療の現状をもっと多くの市民に知ってもらう必要がある ② 高齢、独居でお金がなくても在宅で生活が続けられるか（医療だけでなく生活や福祉のサービスをどうやって届けるか） ③ 仕組みだけでなく、本人の思いや覚悟についても考える必要がある（ACP など）
4	情報発信・周知について	① 医療や福祉の相談窓口や仕組みが市民に周知されていない ② 情報が一か所に集約されているとわかりやすい ③ このまちの医療や介護の情報を学校で教えるなど、子供たちを通じて家族に知ってもらうのも一つの方法 ④ 地域で何が足りていないかを議論して発信してみると、来てくれる人もいるのではないか